

分野	科目名	単位	時間数	回数	時期	担当講師	
専門 I	看護研究	1	30	15	2年次・ 第1・2学期	□外部講師 ☑学内講師	
講義目標	EBNを理解し、最新・最良の看護実践を行うために研究を活用し、直接・間接的に看護研究に関わるための基礎を学ぶ。						
授業概要						時間	展開方法
1)研究の必要性・重要性 2)研究に求められる条件 3)看護研究とは(看護研究の目的) 2. 看護研究のプロセス 1)リサーチクエスチョン 2)文献レビューとその方法 クリティーク 3)研究倫理 4)研究デザイン 5)データ収集 6)データ分析 7)研究計画書 8)論文作成・発表 3. 事例研究の実際 1)事例研究の意義・目的 2)研究の進め方 (1)研究テーマの設定 (2)文献レビュー (3)研究目的 (4)分析事例設定 (5)データ収集方法の設定とデータ収集 (6)データ分析 (7)結果 (8)考察(解釈と類似性の提示) 4. 事例研究発表の方法と評価・講評 5. 事例研究の実際 6. 事例研究の発表と講評 7. 評価						29H	講義
						1H	
評価方法	出席状況 筆記試験 ケーススタディ						
テキスト	1)系統看護学講座、別巻、看護研究、医学書院						
副読本							
備考	参考：看護者のための倫理項領、 訳：看護研究のための倫理指針、日本看護協会						

分野	科目名	単位	時間数	回数	時期	担当講師	
専門 I	健康段階別援助技術	1	30	15	2年次・ 第1学期	□外部講師 ☑学内講師	
講義目標	健康段階と治療の特徴、患者ニーズを理解し、健康段階と主要な症状に応じた援助技術を習得する。						
授業概要						時間	展開方法
<p>1. 健康段階別看護</p> <p>1) 急性の経過をたどる患者の看護</p> <p>(1) 急性期の患者の特徴</p> <p>(2) 急性期にある患者への看護援助</p> <p>① 集中治療を受ける患者の看護</p> <p>② 手術療法を受ける患者の看護</p> <p>・手術前、手術中、手術後の看護</p> <p>・手術侵襲と合併症予防</p> <p>・麻酔の種類とその看護</p> <p>2) 回復の経過をたどる患者の看護</p> <p>(1) 回復期の患者の特徴</p> <p>(2) 回復期にある患者への看護援助</p> <p>3) 慢性の経過をたどる患者の看護</p> <p>(1) 慢性期の患者の特徴</p> <p>(2) 慢性期にある患者への看護援助</p> <p>4) リハビリテーションの経過をたどる患者の看護</p> <p>(1) リハビリテーション期の患者の特徴</p> <p>(2) リハビリテーション期にある患者への看護援助</p> <p>5) 終末の経過をたどる患者の看護</p> <p>(1) 終末期の患者の特徴</p> <p>(2) 終末期にある患者への看護援助</p>						17H	講義
<p>2. 症状別看護</p> <p>1) 症状のアセスメントと看護介入</p> <p>2) 呼吸困難のある患者の看護</p> <p>(1) 呼吸困難のメカニズム</p> <p>(2) 呼吸困難への援助</p> <p>① 体位の工夫 【演習】</p> <p>3) ショック状態にある患者への看護</p> <p>(1) ショックの種類とメカニズム</p> <p>(2) ショック状態への援助</p> <p>① 救急状況にある患者の特徴・家族への対応</p> <p>② 一次救命処置(BLS)の基礎知識</p> <p>③ 心肺蘇生法の実際</p> <p>気道の確保・人工呼吸・胸骨圧迫・AED・止血法 【演習】</p> <p>④ 二次救命処置(ACLS)の基礎知識</p> <p>4) 発熱のある患者の看護</p> <p>(1) 発熱のメカニズム</p> <p>(2) 体温調整への援助</p> <p>① 罨法 【演習】</p> <p>5) 痛みのある患者の看護</p> <p>(1) 痛みの種類とメカニズム</p> <p>(2) 痛みの緩和への援助</p>						12H	
5. 評価						1H	

評価方法	出席状況 筆記試験
テキスト	1)系統看護学講座、専門分野Ⅰ、基礎看護学③、基礎看護技術Ⅱ、医学書院 2)系統看護学講座、専門分野Ⅰ、基礎看護学④、基礎看護総論、医学書院 3)系統看護学講座、別巻、臨床外科看護総論、医学書院 4)術中/術後の生体反応と急性期看護、医歯薬出版 5)臨床看護学叢書 経過別看護、メヂカルフレンド社
副読本	1)高木永子監修：看護過程に沿った対症看護、学研メディカル秀潤社 2)任和子編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院
備考	安全管理の技術を含むこととする

分野	科目名	単位	時間数	回数	時期	担当講師	
専門 I	治療処置別援助技術 II	1	30	15	1年次・ 第2学期	□外部講師 ☑学内講師	
	診察・検査・処置						
講義目標	治療や処置に対する対象のニーズを把握し、安全・安楽を基盤とした診察・検査・処置に必要な援助技術を習得する。						
授業概要						時間	展開方法
1. 保健師助産師看護師法による看護師の業務						29H	講義
2. 診察を受ける患者の看護 1)診察とは 2)診療のプロセス 3)看護師の役割							
3. 検査を受ける患者の看護 1)検査の意義・種類・看護師の役割 2)検体検査 3)生体検査						1H	
4. 治療・処置を受ける患者の看護 1)呼吸を助ける援助 (1)吸入療法 【演習】 (2)吸引(口腔・鼻腔・気管内) (3)酸素療法(マスク・カヌー) 【演習】 ①酸素ボンベ 2)排尿を促す援助 (1)一時的導尿 (2)持続的導尿 【演習】 3)採血 (1)真空管採血 (2)注射器採血 【演習】 (3)技術評価 4)創傷処置・包帯法 【演習】							
5. 評価							
評価方法	出席状況 筆記試験						
テキスト	1)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学②、基礎看護技術 I、医学書院 2)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学③、基礎看護技術 II、医学書院 3)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学④、基礎看護総論、医学書院						
副読本	1)任和子編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院						
備考	安全管理の技術を含むこととする						

分野	科目名	単位	時間数	回数	時期	担当講師	
専門 I	治療処置別援助技術 I	1	30	15	1年次・ 第2学期	☑外部講師 ☑学内講師	
	与薬・ME機器						
講義目標	治療や処置に対する対象のニーズを把握し、安全・安楽を基盤とした薬物療法と看護に必要な援助技術を習得する。						
授業概要						時間	展開方法
1. 薬物療法とは 1)薬物療法の意義、目的 2)薬物療法に関する法律 3)薬物療法における看護師の役割 2. 薬物療法を受ける患者の看護 1)与薬の基礎知識 薬物の吸収・排泄経路、薬の作用、相互作用・副作用、投与の際の注意事項 2)薬物療法に影響を与える要因 3)与薬の技術 (1)経口与薬 【演習】 (2)口腔内与薬、吸入、点眼・点鼻、直腸内与薬、経皮的与薬 (3)注射法 ①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉内注射 ④点滴静脈内注射 【演習】 (4)技術評価 3. 輸血療法を受ける患者の看護 1)輸血の種類 2)輸血療法における看護者の役割 3)輸血に関する医療事故 4. ME機器の取り扱い 【演習】 1)輸液ポンプ・シリンジポンプ < 担当：臨床工学技士 > 5. 評価						25H	講義
						4H	
						1H	
評価方法	出席状況 筆記試験						
テキスト	1)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学②、基礎看護技術 I、医学書院 2)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学③、基礎看護技術 II、医学書院 3)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学④、基礎看護総論、医学書院 4)系統看護学講座、専門基礎分野、疾病のなりたちと回復の促進③、薬理学、医学書院						
副読本	1)任和子編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院						
備考	安全管理の技術を含むこととする						

分野	科目名	単位	時間数	回数	時期	担当講師	
専門Ⅰ	日常生活援助技術Ⅱ	1	30	15	1年次・ 第1学期	□外部講師 ☑学内講師	
	清潔・衣生活、記録・報告						
講義目標	清潔・衣生活の人間の日常生活行動について理解し、対象のニーズの充足のための日常生活援助技術を習得する。また、日常生活における看護実践の記録・報告の意義・実際を学ぶ。						
授業概要						時間	展開方法
Ⅰ. 清潔・衣生活						21H	講義
1. 看護における清潔・衣生活を整える援助技術とは 1) 清潔の援助の基礎知識 (1) 皮膚・粘膜の構造と機能 2) 清潔援助の効果 3) 患者の状態に応じた援助の決定と留置点 4) 清潔援助の実際 (1) 入浴・シャワー浴 (2) 全身清拭 【演習】 (3) 洗髪 【演習】 (4) 手浴 (5) 足浴とフットケア 【演習】 (6) 陰部洗浄 【演習】 (7) 洗面 (8) 整容 (9) 口腔ケア 【演習】 (10) 技術評価 2. 病床での衣生活援助とは 1) 衣生活の意義・熱産生・熱放散・衣服気候・衣生活に関するニーズのアセスメント 2) 衣生活の援助の実際 (1) 病衣の選び方 (2) 履物の選び方 3) 病衣・寝衣の交換 (1) 交換の基準 (2) アセスメント (3) 寝衣交換の実際 【演習】 (4) 輸液ラインが入っている場合の注意点							
Ⅱ. 記録・報告						8H	
1. 記録の重要性(目的と条件) 記録に関する法的規定 2. 看護記録とは 1) 看護記録の目的と意義 看護記録の記載基準 2) 看護記録の構成要素 実際のカルテ様式 3) 看護記録の構成要素 記録の実際を考える 4) 記録の様式 医療事故発生時の記録 5) 電子カルテとクリティカルパス 3. 看護記録管理 1) 看護記録および診療情報の取り扱い 2) 看護学生の医療情報管理 4. 報告の目的 看護における報告 連絡 相談							
Ⅲ. 評価						1H	
評価方法	出席状況 筆記試験						
テキスト	1) 系統看護学講座、専門分野Ⅰ、基礎看護学②、基礎看護技術Ⅰ、医学書院 2) 系統看護学講座、専門分野Ⅰ、基礎看護学③、基礎看護技術Ⅱ、医学書院						
副読本	1) 任和子編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院						
備考	安全管理の技術を含むこととする						

分野	科目名	単位	時間数	回数	時期	担当講師	
専門 I	日常生活援助技術 I	1	30	15	1年次・ 第1学期	□外部講師 ☑学内講師	
	環境、活動・休息						
講義目標	環境、活動・休息の人間の日常生活行動について理解し、対象のニーズの充足のための日常生活援助技術を習得する。						
授業概要						時間	展開方法
I. 環境						12H	講義
1. 看護技術とは、日常生活援助技術とは						17H	
2. 看護における病床環境							
1)病床環境と環境調整の意義						17H	
2)病床環境の調整							
3)療養生活の安全確保							
4)転倒転落、外傷予防 病床環境の援助							
5)病床の作り方							
6)ベッドメイキング 【演習】							
7)リネン交換 【演習】							
II. 活動・休息						17H	
1. 看護における活動・休息を整える援助技術とは							
1)ボディメカニクス							
2)基本体位・良肢位 【演習】							
3)体位変換・体位保持(ポジショニング) 【演習】							
4)移動 【演習】							
5)移乗・移送							
6)技術評価							
2. 睡眠・覚醒の援助							
1)睡眠の種類・メカニズム							
2)睡眠障害のアセスメント							
3)睡眠・休息の援助の実施方法							
III. 評価						1H	
評価方法	出席状況 筆記試験						
テキスト	1)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学②、基礎看護技術 I、医学書院 2)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学③、基礎看護技術 II、医学書院						
副読本	1)任和子編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院						
備考	安全管理の技術を含むこととする						

分野	科目名	単位	時間数	回数	時期	担当講師	
専門Ⅰ	看護基本技術Ⅲ	1	30	15	1年次・ 第1学期	□外部講師 ☑学内講師	
	感染予防、食事・排泄						
講義目標	看護行為を行う場合の基本となる安全を守る技術として感染予防の技術を習得する。また、食事・排泄の人間の日常生活行動について理解し、対象のニーズの充足のための基本技術を習得する。						
授業概要						時間	展開方法
<p>I. 感染予防</p> <p>1. 感染と感染症</p> <p>1) 感染症の成立要件と成立過程</p> <p>2) 感染予防の三原則</p> <p>2. 感染予防のための援助方法の選択</p> <p>1) スタンダードプリコーション</p> <p>2) 感染経路別予防策</p> <p>3) 洗浄・消毒・滅菌</p> <p>3. 感染予防の方法</p> <p>1) 衛生的手洗い 【演習】</p> <p>2) 個人防護具装着 【演習】</p> <p>3) 無菌操作 【演習】</p> <p>4) 技術評価</p> <p>4. 医療廃棄物の取り扱い</p>						15H	講義
<p>II. 食事・排泄</p> <p>1. 看護における栄養と食事を得る援助の意義とは</p> <p>1) 栄養状態および摂食能力のアセスメント</p> <p>(1) 栄養状態のアセスメント</p> <p>(2) 水分・電解質バランスのアセスメント</p> <p>(3) 食欲のアセスメント</p> <p>(4) 摂食能力のアセスメント</p> <p>(5) 食生活変更の必要性、患者の認識・行動のアセスメント</p> <p>2) 食事介助 【演習】</p> <p>(1) 援助の基礎知識</p> <p>(2) 摂食・嚥下訓練</p> <p>① 援助の基礎知識・援助の実際</p> <p>3) 非経口的栄養摂取の援助</p> <p>(1) 経管栄養法とは</p> <p>① 経鼻経管栄養法・栄養物注入</p> <p>② 胃瘻</p> <p>(2) 中心静脈栄養法</p> <p>2. 看護における排泄を整える援助の意義とは</p> <p>1) 自然排尿および自然排便の介助</p> <p>(1) 排泄の意義</p> <p>① 生物学的、心理的、社会的意義</p> <p>2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム</p> <p>(1) 排尿・排便</p> <p>3) 観察とアセスメント</p> <p>(1) 患者の状態に応じた援助の決定</p> <p>① 排尿のアセスメント・排便のアセスメント・排泄に関わる動作のアセスメント</p> <p>② 心理・社会的状態のアセスメント</p>						14H	

<p>3. 自然排尿および自然排便の介助の実際 【演習】</p> <p>1) トイレにおける排泄介助 (1) 援助の基礎知識・援助の実際・ポータブルトイレでの排泄援助 2) 床上排泄援助 (1) 便器・尿器の挿入方法</p> <p>4. 排便を促す援助</p> <p>1) 便秘のアセスメント 2) 便秘改善のための看護ケア 3) 浣腸 【演習】</p> <p>Ⅲ. 評価</p>	1H	
---	----	--

評価方法	出席状況 筆記試験
テキスト	1) 系統看護学講座、専門分野Ⅰ、基礎看護学②、基礎看護技術Ⅰ、医学書院 2) 系統看護学講座、専門分野Ⅰ、基礎看護学③、基礎看護技術Ⅱ、医学書院
副読本	1) 任和子編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院
備考	安全管理の技術を含むこととする

分野	科目名	単位	時間数	回数	時期	担当講師	
専門 I	看護基本技術 II	1	30	15	1年次・ 第1・2学期	□外部講師 ☑学内講師	
	看護過程						
講義目標	看護の方法として看護実践を進める手順や考え方である看護過程の基礎を理解する。また、事例展開を基に看護過程の実際を学ぶ。						
授業概要						時間	展開方法
1. 看護過程とは 1)看護過程の意義 2)問題解決とは 3)看護過程の考え方 2. 看護過程における情報収集 1)ヘンダーソンの理論を用いた情報収集の視点 3. 看護過程における分析と問題の明確化 1)アセスメント(分析)について 2)看護問題の明確化 4. 看護計画の立案と評価について 5. 看護過程の展開の実際 6. 看護過程の展開まとめ 7. 事例に応じた観察：客観的臨床能力試験(OSCE) 8. 評価						29H	講義
						1H	
評価方法	出席状況 筆記試験						
テキスト	1)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学②、基礎看護技術 I、医学書院 2)秋葉公子他著：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際、ヌーヴェルヒロカワ						
副読本	1)ヴァージニア・ヘンダーソン著：湯楨ます他訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会						
備考							

分野	科目名	単位	時間数	回数	時期	担当講師	
専門 I	看護基本技術 I	1	30	15	1年次・ 第1・2学期	<input type="checkbox"/> 外部講師 <input checked="" type="checkbox"/> 学内講師	
	コミュニケーション 観察・フィジカルアセスメント						
講義目標	看護の対象を理解する技術としてコミュニケーション・観察・フィジカルアセスメントを基本技術として習得する。						
授業概要						時間	展開方法
I. コミュニケーション						10H	講義
1. コミュニケーションの意義と目的						19H	
2. コミュニケーションの構成要素と成立過程							
3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本							
4. 効果的なコミュニケーションの実際 【演習】							
5. コミュニケーション障害への対応							
II. 観察・フィジカルアセスメント						19H	
1. ヘルスアセスメントとは							
2. ヘルスアセスメントに必要な技術							
3. ヘルスアセスメントの実際							
4. バイタルサインとは							
1)バイタルサインの観察 【演習】							
(1)体温							
(2)呼吸							
(3)脈拍							
(4)血圧							
2)技術評価							
5. フィジカルアセスメントの実際							
1)胸腹部：フィジカルアセスメント 【演習】							
6. 身体計測							
III. 評価						1H	
評価方法	出席状況 筆記試験						
テキスト	1)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学②、基礎看護技術 I、医学書院 2)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学③、基礎看護技術 II、医学書院						
副読本	1)任和子編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院 2)山中豊明著：フィジカルアセスメントブック、医学書院						
備考	安全管理の技術を含むこととする						

分野	科目名	単位	時間数	回数	時期	担当講師
専門 I	看護学概論	1	30	15	1年次・ 第1学期	□外部講師 ☑学内講師
講義目標	看護の理論、基本概念(人間、環境、健康、看護)、看護の歴史を学び、看護の対象、看護の機能について理解する。					
授業概要					時間	展開方法
1. 医療と看護の原点 2. 看護とは 1)看護の変遷 2)看護の定義 3)看護の役割と機能 3. 看護の対象の理解 1)統合体としての人間(ライフサイクル、発達段階、コードを持つ存在) 2)健康障害を持つ対象の理解 3)ストレスと適応 4)人間の「暮らし」の理解、家庭・集団・地域 4. 健康のとらえ方と国民の健康状態 1)健康の定義、健康の関連要因 2)社会の変遷と健康観の変化 3)人々の生活と健康に関する統計 5. 看護の提供者と提供のしくみ 1)看護職の養成と就業状況 2)看護職者の教育とキャリア開発 3)看護サービスの提供の場 4)看護をめぐる制度と政策 5)看護サービスの管理 6)医療安全と医療の質保証 6. 看護実践のための理論 1)看護理論とは 2)看護理論の変遷 3)様々な看護理論 7. 看護における倫理 1)医療・看護の場における倫理の必要性 2)倫理的ジレンマ、倫理的課題への対応 3)看護学生の実習における倫理 8. 広がる看護の活動領域 1)国際看護学とは、健康と保健医療の世界的課題 2)国際協力のしくみ、在日外国人の看護と異文化理解 3)災害看護とは(定義・分類・法律) 4)災害サイクルに沿った看護活動 9. 評価					29H	講義
					1H	
評価方法	出席状況 筆記試験					
テキスト	1)系統看護学講座、専門分野 I、基礎看護学①、看護学概論、医学書院					
副読本	1)Florence Nightingale 著：薄井坦子他訳：看護覚え書、現代社 2)竹尾恵子監：超入門 事例で学ぶ看護理論、学研 3)ヴァージニア・ヘンダーソン著：湯楨ます他訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、新装版					
備考						